

## 渡辺先生をお送りするに当って

松 井 勇

昭和33年8月、渡辺先生をお迎えした頃に較べて、教室も非常に変わりました。当時は大学院もなく、したがって科目制度で、人文地理と自然地理がありましたが、人文地理は非実験で、全体としての経費も少なく、機械・器具なども今日からみるとまことに貧弱なものでした。講義の種類も限られ、その上、基礎的な科目も隔年開講で間に合わせていた場合もあります。先生のご在任中にこのような点で教室が改新され、発展したことは、先生のご努力に負うところがきわめて大きいと思います。その中でも大学院の新設や、人文地理の実験講座としての取扱いなどについては、先生には大学の内部ばかりでなく、外部でも多大のお骨折をして下さいました。お別れに当って、ここに明記して、厚くお礼を申し上げます。

「思うて学ばざれば、殆し」という孔子の言葉は、私が自らを戒める意味で、常に心にとどめておりますが、思索のみあって知識の集積がなければ危険におちいるという意味に受取れば、われわれ地理を学ぶものには、きわめて適切な助言のように思われます。自然・人文の全域にわたって、広汎な知識を身につけておられる渡辺先生には、私個人として教えられる点が数々ありましたが、停年とは申せ、ここに得難い一人の地理学者とお別れするのは、まことに心残りに存じます。今後は大学の外にあって、色々ご教示下さいますようお願い申し上げます。どうぞご自愛のほどを。